

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2023年9月25日】第178号



お米の配布

9月15日(金), 1年生と2年生が参加して横浜市田奈の田んぼで稲刈りが行われました。1年生が5月19日(金)に田植えをし, 田んぼのオーナー野路様にお世話をしていただき元気に育ったイネです。稲刈りの日は, 東京農業大学農芸化学科の先生方にご指導いただき, 大学院生にも手伝っていただきました。1年生はハサミで穂をつみとり, 2年生はのこぎり鎌での刈り取りにチャレンジして帰ってきました。この日に収穫したイネの一部は, 昔ながらの小田干しをし, 天日での乾燥をしました。

そして, 食用とする大部分は, 野路様の手により乾燥, 精米されました。9月21日(木), 農大稲花小に届けられたお米が, 1年生と2年生の一人一人に1キログラムずつ配布されました。

新米です。水加減を工夫されて, ご家庭でもおいしく召し上がっていただくようお願いします。子どもたちからも田んぼの話を聞いてみてください。なお, 例年通り11月の新嘗祭に合わせて, 給食でも田奈のお米を味わう予定です。

土作り

5年生は4年生だった昨年の12月に, グリーンアカデミー大出英子先生ほかのご指導を得て, 落ち葉たい肥を作りはじめました。たい肥箱は, 東京農業大学森林科学科の大林宏也先生が作ってくださったものです。1か月に1回程度の切り返しを行い, 臭い, 汚れるなどと嫌がる子どもももちろんいましたが, 順調に, 落ち葉がだんだんに腐って土に戻っていく様子を観察することができました。

9月22日(金)から, この落ち葉たい肥を古い土と混ぜての土作りが, 5年生が1年生と一緒に共同作業という形で始まりました。1年生がトマトなどを植えて痩せてしまったポットの土を, 5年生が作った落ち葉たい肥と混ぜることによって, 再び豊かな土になるのです。1年生はこの土に, 今度は秋播き草花の種を播種する予定です。また, 現4年生が新たな落ち葉たい肥作りに取り組みます。

なお, 埼玉県武蔵野地域の「落ち葉堆肥農法」は, 本年7月に世界農業遺産に認定されています。林の落ち葉を集めて畑に入れ, 安定的な生産だけでなく景観や生物多様性を維持しているところにその素晴らしさがあるとのこと。落ち葉掃きをして集めた落ち葉が土づくりに役立つことを, 子どもたちも実感できたのではないのでしょうか。

農林水産省 埼玉県 武蔵野地域URL

https://www.maff.go.jp/j/nousin/kantai/giahs_3_101.html

献立会議

農大稲花小では毎月１回、献立会議が開かれます。校長、事務室長、養護教諭、栄養教諭そして、給食の基本献立作成から調理までを委託している株式会社共立メンテナンスの担当者が出席し、農大稲花小らしい、そして安心安全な給食の運用について共通理解を図っています。９月２１日（木）の献立会議では１１月の給食献立の検討が行われました。

喫食する児童や教職員数の確認から、学校行事による食数の変更や提供時刻の確認なども行われます。とくに大切なのは、食物アレルギーのある児童への対応です。年度初めに定めた基本方針に従って、なるべく多くの児童が食育としての給食と一緒に味わえるように、同時に、食物アレルギーによる事故が絶対に無いように注意深く献立を検討し、決定していきます。

１１月には七五三のような季節の行事献立、海外の国や日本の県ならではの特色ある献立、農大関係の食材を使った献立などが予定されています。給食の献立が発表されると、ご家庭ではそれを見ながら子どもたちとともに楽しみにされていると聞いています。

なお、子どもたちが給食を食べる前に、校長あるいは校長の代理者が、毎日検食を行います。ただ味わうのではなく、何らかの不備がないかどうかを確認する検食の役割も大切です。

アサガオの花

夏は毎日咲いていた玄関前のアサガオ、咲き疲れもあり一時は花が見られなくなりました。しかしここ数日は再び元気に咲くようになっていきます。１日に１５輪以上咲くこともあるのです。子どもたちも花殻を摘むのを手伝ってくれています。先週は、理科の授業で花の観察をするために、これらの花を役立てました。

花が咲いて１か月くらいまでには子房がふくらみ果実となって、その中に黒い種が４から６個くらいできてきます。種が乾燥する前だと、子葉が中にできていることもわかるはずですが、たくさん種ができていますので、これも学習の役にたつことでしょう。花も間もなく終わりですので、これからは種の実るのが楽しみです。

英語の学習

本校では１年生から毎日１コマ（現在は４０分）の英語の授業があります。また毎日１５分から２０分以上、家庭で英語の学習をすることとなっています。採用している英語学習プログラムGrapeSEEDのアプリを使っての家庭学習があつてこそ、学んだ英語が定着すると考えています。

子どもたちが毎日、家庭でアプリを使って学習しているかどうかを折々確認すると、ほぼ毎日、学習に取り組んでいる子どもが多い様子がわかります。とくに低学年では、家庭学習の習慣がつくまでは、保護者の働きかけが必要です。低学年の子どもたちの高い学習率を見るにつけ、楽しんで英語に取り組む子どもたちの姿が想像でき、保護者の皆様の働きかけには感謝しています。

学び続ける子どもに

本校では自ら学ぼうとする子どもを育てることを、大切にしています。授業でも、考えたり、共たちと議論しながら学ぶ時間を多くとっています。しかし、放課後、多くの時間をいわゆる勉強に費やしていたとしても、義務的にやっていたり、与えられたものをこなすだけでは、真の意味での

家庭学習をしていることにはなりません。子どもたちには、自ら机に向かう習慣をつけ、必要なことや興味をもったことにはさらにじっくり取り組める時間的余裕を与えることが大切です。追われるように忙しい子どもは、結局のところ学習習慣がついていなかったり、考える力が育っていなかったりしていることが多く、いつかは燃え尽きてしまう心配があります。

多くの子どもたちが東京農業大学第一高等学校中等部へ進学しようとする本校です。小学校からさらに中高一貫の良さを生かして、まずは学校での学びを一番大切にしながら、学ぶことは楽しいと思える子どもであり続けてほしいと思います。そして、自ら学び、一生学び続けることのでき子どもを育てたいと考えており、保護者様にもご理解をいただきたいと願っています。

東京農業大学稲花小学校

校長 夏 秋 啓 子